

小学校での
取り組み

授業実践報告

モンゴルと日本の暮らしから 色々な食べ物・飲み物を学ぼう

I eat～. I drink～.

小学校1年生英語／国際理解の時間

はじめに 本校では、英語の時間に、海外の文化や多様性にふれる国際理解の時間を設けている。ここでは、小学校1年生の英語の時間に行った授業について紹介する。身近な食生活と関連させて、まだ知らない近くの国、モンゴルについて考えるきっかけとなる授業を通して、広い視野と深い思いやりの心で世界をみる児童が育ってほしいと願い、指導計画を立てた。

学習目標

- ・日本に近い国の一つ、モンゴルという国を知ることができる。
- ・モンゴルの日常の食べ物を知ることができる。
- ・モンゴルの家や動物を大切に暮らす生活を知ることができる。

使用教材

- ・アジアの地図（白地図に英語で国表記してある）ワークシート
- ・食べ物のワークシート
- ・モンゴルと日本の暮らし、モンゴルの食文化がわかるスライドと写真
- ・食べ物の絵カード

学習活動の流れ

① I eat～. I drink～. の表現を学ぶ。

・教員2名（日本人・イスラエル人）の日常の食事について写真を用いて紹介。児童は、人や国により食事の好みや主食があることを知る。児童も I eat/drink～を用いて、I eat rice. I drink green tea. 等英語で発表する。

② モンゴルという国があることを知る。

・二人の子どものイラストを提示して、二人がどこから来た友達か考える。

・その内の一人は、「モンゴル」という国から来ていることを知る。

<問いかけ>

・スーホくんは誰でしょう？

児童の反応：聞いたことがない名前に「誰だろう？」と興味を持つ。

・スーホくんはどこで暮らしているのでしょうか？

ヒント1：日本に近い国に暮らすお友達です。日本の近くにある国を考えよう。

児童の答え：韓国、中国、アメリカ、カナダ、フランス、ロシア、オーストラリア等

ヒント2：板書に右記を書く「くに：() (ン) (ゴ) ()」

・正解後、日本とモンゴルの国名を「JAPAN / MONGOLIA」と英語で書く。

③ モンゴルの場所を知る。

・アジア近隣地図を配布し、日本とモンゴルを国名の頭文字、JとMから探す。

・地図に色をつけて日本とモンゴルの場所を知る。



地図に色をつける児童 ©振本ありさ

④ Is this Japan? Is this Mongolia? の表現を学ぶ。

・モンゴルと日本の相違点を写真から考える。

<相違例>

・風景（草原と稲田、放牧動物）

・人々や家（顔だちや服装、ゲルと木造家屋）
・屋根や軒下（屋根で乾燥させたチーズ、屋根からつるした干し柿）
・家の中（石炭ストーブ、囲炉裏）

<児童の気づき>

モンゴル：・馬、羊、山羊、牛、ラクダなど動物がたくさんいる。

・動物は草を食べるから、草がなくなったら家を畳んで引っ越すのかな？

・動物のお乳を飲んだり、お肉を食べるのかな？

日本：・稲は植えたら抜けないから、モンゴルのような引っ越しは大変そう。

⑤ What do you eat? What do you drink? の表現を学ぶ。

・各児童に食べ物（米、野菜、茶、肉、加工品、ジュース等）の絵カードを配布し、それらが①日本で食べる、②モンゴルで食べる、③両方の国で食べる（分からない）の内、どの区分に入るか考える。

・絵カードを黒板に貼ってもらい、その後、話し合いをする。



絵カードを貼る児童 ©振本ありさ

⑥ まとめ

・写真でモンゴルの様子、食べ物を紹介する。動物を大切に世話する子どもや家族、そして命に感謝して食している暮らしを知り、自分たちの毎日の食事について考えることで命や恵みに感謝する気持ちを学ぶ。

児童の感想

・誰が動物の世話をするの？
・魚は飛行機で買いにいきますか？
・色々な動物からお乳が出ることにびっくりした。
・肉じゃがに似たおかずやヨーグルト、チーズがあることに驚いた。
・動物の命、ありがとう、いただきますと思った。
・きつとお肉は体や心をあたたかく元気にすると思う。

最後に

授業を通して、児童は初めて知る国の人々の暮らしや食生活に興味と高い関心を持つことができた。今後も、モンゴルの昔からの遊牧民や子どもたちの暮らし、また、モンゴ

ルが身近な国であることを知ってもらおう授業を行っていききたい。そして、今後もユニセフの活動等を学びながら、思いやりの心を持ち、児童と一緒に世界の子どもたちを支援する活動に繋げていきたい。